

後続く人たちへのメッセージ

2025年3月 広大附属福山高校卒

2025年3月 パスカル卒塾

2025年4月 広島河合塾へ

2026年2月 島根大学医学部医学科合格 N.A.さん

私は1年間の浪人を経て、幸い島根大学医学部の推薦入試で合格をいただくことができました。振り返ると、合格の一番の要因は「苦手から逃げなかったこと」だと思います。

現役時代、私は物理と地理が大の苦手でした。

特に物理は公式を覚えても問題になると手が止まり、「なんとなく分かったつもり」の状態が続いていました。地理では、暗記したつもりでも知識が断片的で曖昧なせいで、共テ模試ではいつも足を引っ張る科目でした。そしてそれらを曖昧な状態にしたまま共通テスト本番をむかえ、案の定思うような点数は取れませんでした。さらに物理から逃げた結果選択した英数受験の第一志望大学の合格も、逃すこととなりました。

医学部以外の学部は一切視野に入れていなかったのも、必然的に浪人が決まり、2年目の受験生活が始まりました。1年目とは何か変えなければならない、そう思った私はまず「苦手科目を曖昧なままにしない」と決めました。

物理では、難しい問題にいきなり取り組むのではなく、予備校のテキストを用いて教科書レベルの基本問題から徹底的にやり直しました。公式の暗記ではなく、「なぜその式が成り立つのか」「どの状況で使うのか」を一つずつ確認しました。解けなかった問題は、解説を読んで終わりにせず自分の力だけで再現できるまで解き直しました。すると少しずつ、「分かる」が「解ける」に変わり、苦手意識が薄れていきました。

地理も同様に、単なる暗記ではなく因果関係を意識しました。気候・産業・人口などを関連づけて理解し、地図を使いながら共通テストに出るポイントを意識して正確さを重視しながら学びました。

しかし共テ模試の成績は全くと言っていいほど伸びず、パスカルの先生に相談の連絡をしたら、科目の変更を提案されるほどでした。しかし最後までやり抜くと決めたので、諦めず頑張り続けました。その結果、本番では去年より大きく得点率を伸ばすことができました。さらに、前期試験で物理を使う覚悟を決めていたこともあり、難化と言われた共テ物理もなんとか耐えたかと思います。

ここまで頑張れたのは、親身になって質問対応や相談に乗ってくださった先生、同じ目標に向かって努力する友人、どんなときも変わらず支え続けてくれた家族がいてくれたからこそです。一人では乗り越えられなかった一年だったと、心から感じています。支えてくださったすべての方への感謝を忘れず、これからも努力を重ねていきたいと思っています。

これから受験を迎えるみなさんへ。周りと比べて自分が劣っているようにばかり思ったり、全く成長していないのではないかと思ったりしてしまうこともあると思います。考えれば考えるほど不安は募ります。しかしそんなときは「考えすぎるな、バカになれ！」です。これは浪人時代にパスカルの渡辺先生にかけていただいた言葉の1つです。

受験は本当に何が起きるか分かりません。だからこそ深く考えすぎて身動きができなくなってしまう前に、手を動かし行動することが大切だと教えられました。それでももちろん不安は突然襲ってきます。模試の結果に一喜一憂することもあります。そんなときは、少しでも自分の好きなことを考える時間をつくってみてください。

今できないことがあっても、それは決して限界ではありません。積み重ねた努力は必ず力になります。どうか最後まで、自分の可能性を信じてやり切ってください！心から応援しています。